

委託事業実施内容報告書

平成21年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】

受託団体名 HOPE プロジェクト

1 事業の趣旨・目的

- ・日本語を学ぶ機会に恵まれない人たちに 日本語学習のきっかけを与えて 修了後、夜間高校あるいは専門学校 あるいは就職へと繋いでいく。
- ・生活で役立つ日本語を中心に、社会に溶け込むためのコミュニケーションに役立つ表現、会話中心、ひらがな・カタカナを習得

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	出席者	議題	会議の概要
2009.9.24	高野亨・池田千恵美・近藤妙子・高良マルシア・二口とみゑ	・講座開設にあたって	・講座の目的、目標の確認 ・いつから？(日程変更につき) ・広報の仕方など
2009.10.17	高野亨・池田千恵美・近藤妙子・高良マルシア・二口とみゑ	・チラシ(案)作成 ・ 広報依頼	・チラシ作成(英語、中国語、ポ語の訳) ・マスコミへの広報依頼
2009.11.21	高野亨・池田千恵美・近藤妙子・高良マルシア・二口とみゑ	・指導のコースデザイン、カリキュラムについて	・ちらしの発送、広報依頼等 ・カリキュラム概略決定
2010.1.9	高野亨・池田千恵美・近藤妙子・高良マルシア・二口とみゑ	・教材、指導形態について	・どのレベルを対象とするか？ ・教材の選択

3 日本語教室の開催について

- ① 日本語教室の名称;HOPE 日本語学習室
- ② 開催場所;広島 YMCA ビジネス専門学校 1号館 2階 210
- ③ 学習目標;広島地域に在住している外国人で日本語を学ぶ機会に恵まれない人々が日本語の基礎から専門家の指導を受けて、その後の学習の可能性に繋ぐ。
- ④ 使用した教材・リソース;「はじめよう日本語1」・「みんなの日本語 聴解タスク」・「わかって使える日本語」「敬語トレーニング」・毎日の聞き取り」・自作教材

⑤ 受講者の募集方法:

- ① 国際センターや国際交流協会へチラシを送付して広報をお願いした。
- ② 新聞記者、NHK の取材記者に広報をお願いした。
- ③ 通訳協会、その他支援ボランティアグループで教室開講を紹介してもらった。

⑥ 受講者の総数 36 人 (延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

⑦ 開催時間数(回数) 60 時間 (全 20 回)

⑧ 日本語教室の具体的内容→内容については[資料1]参照

回(※)	開催日	時間数	受講人数	内容
①	1月13日	3時間 (18:00	10人	オリエンテーション他
②	1月15日	~21:00)	9人	以下 資料1 参照
③	1月20日	以下 同時間	11人	
④	1月22日		14人	
⑤	1月27日		19人	
⑥	1月29日		24人	
⑦	2月3日		17人	
⑧	2月5日		25人	
⑨	2月10日		24人	
⑩	2月12日		27人	
⑪	2月17日		14人	
⑫	2月19日		17人	
⑬	2月24日		17人	
⑭	2月26日		13人	
⑮	3月3日		16人	
⑯	3月5日		16人	
⑰	3月10日		12人	
⑱	3月12日		17人	
⑲	3月17日		17人	
⑳	3月19日		13人	日本語テスト・スピーチ

⑨ 特徴的な授業風景(2~3回分)

⑩ 活用した日系人等(日本語を母語としない)の名簿

氏名	母語(国籍)	来日年(日)数	参加回数	当該教室での役割
高良 マルシア	ポルトガル語(ブラ)	18年	20回	授業補助, 通訳

	ジル)			
王 微	中国語	10 年	5 回	授業補助, 通訳
呉 延明	中国語	2 年	1 回	通訳

⑩ 支援者の名簿(⑦以外)

氏名	所属	専門分野及び日本語教育に関する資格	参加回数	当該教室での役割
特になし				

4 事業に対する評価について

① 当初の学習目標の達成状況；

募集時においては 15 人の予定だった。初回はまだ人数が少なかったが口コミで参加申し込みが合いつぎ、2 回目からは2クラスに分けて、最初に 1 時間だけ一緒に hearing をして 2,3 時間目は初級と中級に別れた。更に人数が増えたため、最初から 2 クラスに分かれたがお互いにその効果はあったと思う。

学習者がそれぞれのレベルで学びたいことが、専門家の教授で学べるというのは魅力だったようで、遠くからも仕事が終わってから熱心に通ってこられた。

初級レベルの人は通訳つきでの授業だったが、最終日 立派に「お国自慢」をスピーチするまでになった。この講座をきっかけに日本語学習を続けていきたいと思っている人も多い。3 月 19 日に終了してからも、「次はいつから始まるのか？」と せかされている。

② 学習者の習得状況；

学習者はほとんどの人が仕事を持っているので 20 回全てに出席できたのは 2 人だったしかし、初級レベルの人は日常会話を日本語で話してみようという意欲が出てきたし、中級レベルの人は「日本語能力試験」にトライしてみるという人や 敬語の使い方がマスターできて、会社で助かると実際に使える日本語を学べた満足感があつたようだ。

(アンケートをとった)

③ 日本語教室設置運営の効果、成果；

今回は 講師を呼んで 単発的に講座をデザインするのではなく、広島 YMCA に再委託することで、日本語教育の専門家に、カリキュラム作成と指導をお任せした。

学習者にとっては広島市内まで来るというのは 相当に負担が大きかったと思うが、それでも 熱心に通ってこられた。それは「こんないいクラスは初めて」という彼らの言葉に集約されていると思う。専門家による指導で、3 時間の講座は充実していたし、なにより楽しく学べた。

- ④ 地域の関係者との連携による効果, 成果 等;
今回、広島 YMCA に再委託することは 企業としての YMCA にとってもメリットがあったし、学習者にとっては「専門家」による講座という点で魅力があった。更に講座は基本的にはオープンにしていたので、地域で定住外国人のサポートをしている NPO の人や YMCA 日本語教師養成講座を受講している人たちにも参観してもらえたので、学習者の実態や今置かれている厳しい状況、日本語教室が更に必要であることなど理解してもらえたと思う。
- ⑤ 改善点, 今後の課題について(具体的に記述する。)
- a. 現状 ;60 時間で終わってしまったが、更なる学習機会が必要。
初級レベルこそ 専門家による効率的な指導が必要
今後の課題;
- ① 初級レベルこそ 専門家による効率的な指導が必要
② 週 1 回では中々定着できない。せめて週 2~3 回の学習画必要
③ 片道 1 時間近くかけて通ってくる学習者が 10 人近く居た。
それぞれの地域で同じような教室が必要。
- ④ 専門家としての日本語教師の確保。
行政で開催する教室では ボランティアが多いので(それも必要だが)
きちんと謝金を出して専門家に指導してもらえる流れを作らなければならない。
- b. 今後の活動予定, 展望
授業料を出してでも もっと学びたいという学習者も居た。
少しでも学習者から授業料をもらってでも、教室を分散して設置したいと考えている。
(現在 海田地区、東広島地区で考えている)
- ⑥ その他参考資料
1. 教材(上記 テキストのコピーなど)
2. 修了時の学習者へのアンケート
- @ 次ページに再委託した広島 YMCA ビジネス専門学校日本語科校長 近藤妙子先生の「総括と課題」を添付します。近藤先生は実際に教室でも指導してくださいました。

日本語授業の総括と課題

1. 学習目的

生活者としての外国人を対象に、初級クラスの授業を行う委託を受け、HOPE プロジェクトリーダーと相談の上、生活で役立つ日本語を中心に、社会に溶け込むためのコミュニケーションに役立つ表現、会話中心、ひらがな・カタカナを習得し、最低限の情報を収集できる識字も盛り込むこととした。

2. 授業内容

クラス概要：1クラス 20名定員で3時間 20回の授業を計画した。

内容： 初級ということであったので、「はじめよう日本語」を教材として、20回を予定した。

3. 実施状況

(1) プレイスメントテスト

学習者のレベルを見るために、テストを能力試験問題を利用し、テストを行った。(テスト問題添付)

初級のみでなく、中級レベルの人が半数いたため、急遽予定のカリキュラムを変更し、1限目：共通、2，3限目を分かれて授業を行うよう対応した。

その後、参加者が増え、中級が初級を超える状況になったため、3時間とも別授業で行った。

(2) 教材 (別紙カリキュラム表を参照)

① 初級

聴解教材：『みんなの日本語』問題部分の聴解

(当初 初級・中級共通 新毎日の聞き取り 50)

2，3限：『はじめよう 日本語』

② 中級

聴解教材：『新毎日の聞き取り 50』 からピックアップ

2，3限：『敬語トレーニング』『わかって使える日本語』ピックアップ

(3) 進め方

1限目に聴解教材による聞き取り練習を行い、2，3限目は話すことを中心に、表現の導入・文型練習・会話練習といった形を両クラスとも大きな柱として授業を行った。参加者の希望などを随時取り入れて修正を行い、中級文法表現や活用規則などを挟み込んで基本テキストを進める方法をとった。最後にまとめとして、テストとスピーチを行った。

4. 全体の総括

参加者は初級よりも中級レベルがより学習意欲が高く、中級レベルの学習場所がなかなかないのではないかと思われた。広島地域柄、ボランティアクラスが多いので、初級レベルの学習場所が多いようだが、初級でも学習内容がよかったという評価を得た。中級は敬語、使役、受身といったような表現を体系的に学習したことがなく、会社などのコミュニケーションで行き詰まりを感じているという参加者もいた。

5. 課題

中級レベルの学習者がしっかりと学習できる場が必要であると実感した。プロジェクトリーダーから、就職に役立つ用語の学習などを盛り込んでほしいとの要請があったが、時間の都合で盛り込むことができなかった。中級レベルではコミュニケーションの背景にある文化的な知識も十分習得できる語学力があるので、そのような内容も盛り込んだ工夫が今後の課題であると思われる。

初級レベルは滞在目的がまちまちであり、焦点を絞るのが難しかった。初級者はまず基本的な語学力と教える方が考えがちだが、それだけではない何かが求められているように思われるが、把握しきれなかったことが残念である。

最後にスピーチを行ったが、スピーチの日に限って参加者が少なかった。これは参加者が交流ということよりも学習を求めているということではないだろうか。参加目的をよく汲み取り反映するべきであった。